

2022年3月期 第3四半期決算に関する主なご質問

- Q: 建築用ガラス事業と高機能ガラス事業の事業環境と収益性は、来年度以降も良好な状態が続く見込みか？
A: 建築用ガラス事業と高機能ガラス事業ともに、この良好な状態は来年度暫くは続く見込んでいます。

- Q: 自動車用ガラス事業の収益性改善に向け、実施・検討していることはあるか？
A: 自動車用ガラス事業においては、第2四半期より追加コスト削減を実施しています。また今後の価格改善の方法について検討しています。

- Q: 新開発した高弾性・高性能ガラスファイバー「MAGNAVI®」は、補強材としての利用を想定しているのか？
他社製品等と比較した際に、特徴や優位性があれば教えて欲しい。
A: 当面は、FRP等の複合材・補強材の分野でのソリューションを狙っています。カーボンファイバーに優る耐衝撃性能を有しながら、より低価格であること、ニュートラルな色調であることから、従来のカーボンファイバーでは難しかった分野での展開が可能となります。また、環境配慮型製品として、脱炭素社会の実現にも貢献します。

ご参考：2022年2月2日付リリース「高弾性・高強度ガラスファイバー『MAGNAVI マグナビ®』を新開発」
(<https://www.nsg.co.jp/ja-jp/media/ir-updates/announcements-2022/magnavi-high-performance-fiber>)

- Q: 第3四半期では原燃材料費高騰による影響額（113億円）のうち、半分程度（62億円）を価格改善で吸収できているが、第4四半期も同様に原燃材料費高騰による影響の半分程度を価格改善で吸収できる見込みか？
A: 第3四半期は、非常に急な勢いでエネルギー価格が上昇したため、一時的に価格改善が追い付きませんでした。第4四半期は、建築用ガラス事業ではサーチャージ制のある国や地域もあり、価格改善による吸収が十分可能と見えています。

- Q: 今回の、通期営業利益の予想を240億円から200億円に40億円下方修正した要因は？
A: 大部分が原燃材料費高騰の影響です。

- Q: 第3四半期実績の営業利益が18億円であったのに対して、通期営業利益の予想200億円を達成するために必要な第4四半期の営業利益は55億円となるが、事業ごとの傾向を教えて欲しい。
A: 当グループでは、季節性として営業利益が第3四半期に一旦減少し、第4四半期に回復する傾向があります。事業ごとでは、引き続き建築用ガラス事業と高機能ガラス事業が牽引していくと見えています。

- Q: 資本的支出の見通しに変更はあるか？
A: 変更はありません。引き続きキャッシュ管理を徹底していきます。

- Q: 太陽電池パネル用ガラスでの顧客の増産に関して、対応方針の決定はあるか？
A: 未決定ですが、自然環境への貢献や収益性の観点から、あらゆる選択肢を排除せず可能な限り対応していく方針です。